



公益社団法人 茨城県農林振興公社
穀物改良部
〒311-4203 水戸市上国井町3118-1
TEL 029-239-6300 FAX 029-239-6880
http://www.ibanourin.or.jp

1. 平成29年度茨城県稲作共進会・そば共進会表彰式開催される



宮本理事長主催者挨拶



渡邊審査長審査報告



最優秀賞授与者と宮本理事長

当社は、2月16日（金）水戸京成ホテルにおいて、市町村穀物改良協会、農協、農業改良普及センターなど関係者56名の出席をいただき、第61回稲作共進会及び第28回そば共進会の表彰式を開催しました。

稲作共進会は、坂東市の中田伸一様が最優秀賞として農林水産大臣賞を受賞しました。中田様は、水稲（コシヒカリ35ha、月の光11ha）や麦、そばを組み合わせた大規模普通作経営で、作目・地力に応じ発酵鶏ふんを使い分けなど、有機物施用による土づくりに取り組んでいます。また、作期分散やレーザーレベラー、高性能田植機による作業の効率化や色彩選別機による選別、乾燥機ロットごとの食味分析、特別栽培米認証・エコファーマの取得など、他の模範となる取り組みが

評価されました。

そば共進会では、坂東市の青木農芸（代表取締役 青木茂和）様が最優秀賞として茨城県知事賞を受賞しました。青木様は、平成27年に1haのそば栽培からスタートし、年々規模拡大し平成29年は24haの常陸秋そばを栽培しております。特に、土づくりなど基本技術の励行による良質・多収栽培や機械化一貫体系による作業の効率化を図ると共に、実需者ニーズ対応するため、通常より大きめの網目で篩うなど、工夫した取り組みなどが評価されました。

このほか、今回、入賞された方々も、地域の模範となるすばらしい取り組みで、今後とも地域のリーダーとし一層のご活躍が期待されます。

も く じ

1. 平成29年度茨城県稲作共進会・そば共進会表彰式開催される 1
2. 主要農産物種子法廃止に係る本県の対応について 2
3. 「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法と平成29年産の収量と品質について 3
4. 「ふくまる」グランプリを開催 5
5. がんばる種子生産者！（JA北つくば 結城種子部会） 6
6. 穀物改良部ニュース 7
 - (1) 茨城県採種部会協議会が種子粉の聖地富山県訪問
 - (2) 平成29年産大豆・そば種子調製程度確認会の開催
 - (3) 落花生生産者・関係機関情報交換会について
 - (4) 全国そば優良生産表彰式について
 - (5) 県北コシヒカリ最上級の「特A」評価獲得

2. 主要農作物種子法廃止に係る本県の対応について

茨城県農林水産部産地振興課

1 主要農作物種子法（以下「種子法」という）の概要

種子法は昭和27年に戦後の食料増産という国家的要請を背景に、稲・麦・大豆の種子については国・都道府県が主導して生産と普及を進める必要があるとの観点から制定されました。

各都道府県は、この法律に基づき、普及すべき優良品種（奨励品種）の指定、原種及び原原種の生産、種子生産は場の指定並びに種子の審査等を行い、優良な種子の生産に取り組んできました。

2 国が種子法を廃止する理由

国は、①各都道府県とも家庭用向けの品種開発に主眼をおき、外食・中食用や輸出用など多様な品種や多収性品種の開発にほとんど取り組んでいないこと、②民間育成品種は、都道府県の奨励品種に採用されにくいことから、民間事業者の品種育成の意欲が湧かない、という状況を変え、国際競争力の強化には官民あげて種子の開発・供給体制をつくることが重要との判断により、平成30年4月1日から種子法を廃止することとしました。

3 種子法の廃止に係る県の対応について

国は、稲・麦・大豆の種子について、平成29年11月15日付で通知「稲、麦類及び大豆の種子について」を出し、種子法廃止後に都道府県が従来実施してきた種子の生産や供給に係る業務を実施するに当たっては、これまでの国からの通知を参考にするようにと明記しました。

このため、県はこの通知を踏まえ、これまでと同様に種子生産に取り組んでまいります。

3. 「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法と平成 29 年産の収量と品質について

農業研究所 水田利用研究室 四宮 一隆

1. 「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法

青立ちしにくい大粒大豆「里のほほえみ」は、平成 27 年に本県の認定品種に採用されました。平成 29 年産は 1249ha 作付けられ（産地振興課推計値）、平成 31 年産には、「タチナガハ」からの全面転換を予定しています。農業研究所は、「里のほほえみ」の高品質（農産物検査における一等最高限度；紫斑粒、しわ粒、裂皮粒などの被害粒及び未熟粒混入率 15% 以下）かつ目標収量 250kg/10a が得られる栽培法を開発しました（平成 28 年度主要成果として農業研究所ホームページにて公表）。

(1) 播種適期

水戸市（表層腐植質黒ボク土）、龍ヶ崎市（中

粗粒灰色低地土）ともに 6 月 20 日～7 月 10 日播種までは目標収量 250 kg /10a 以上を達成しました。また、被害粒及び未熟粒混入率は、6 月 30 日播種が最も低いため、高品質多収となる播種適期は、6 月 20 日～7 月 10 日です（図 1）。

(2) 播種密度

水戸市、龍ヶ崎市ともに播種適期の 7 月 10 日までは、いずれの播種密度においても目標収量 250kg/10a をほぼ達成しました。また、狭畦栽培でより多収が得られることも確認されました。さらに、適期以降の 7 月 20 日播種までは、畦間 30cm、株間 10cm の狭畦栽培により、目標収量を達成できることが明らかとなりました（図 2）。

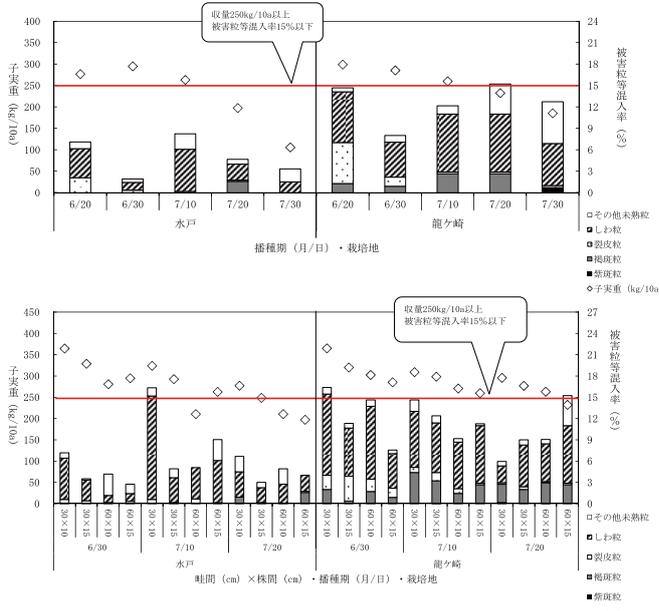


図 1 所内ほ場の「里のほほえみ」における播種期別の子実重と被害粒等混入率

- 注 1) 平成 26 年産から平成 28 年産の平均値
- 注 2) 畦間 60cm・株間 15cm のデータ
- 注 3) 子実重は水分 15% 換算値、被害粒等混入率は 300 粒から選別、判定した割合
- 注 4) 平成 27 年産の水戸の被害粒等混入率のデータは除く

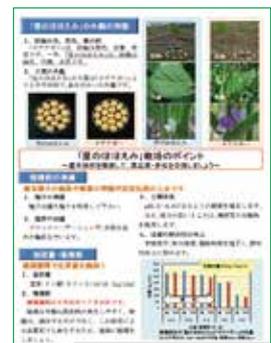
図 2 所内ほ場の「里のほほえみ」における播種期と播種密度別の子実重と被害粒等混入率

- 注 1) 子実重の水分換算値、被害粒等混入率の測定法については図 1 に準じる。

2. 大豆新品種「里のほほえみ」栽培マニュアル

「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法と、播種から収穫、乾燥調製までの基本的な栽培技術を合わせて取りまとめた、大豆新品種「里のほほえみ」栽培マニュアルを作成しました。

「里のほほえみ」の高品質安定生産に、是非、ご活用ください。



3. 平成29年産「里のほほえみ」の収量と品質

(1) 生育期間中の気象概況

大豆生育期間中の日平均気温は平年より0.3℃低く、降水量は平年比122%、日照時間は平年比77%でした（龍ヶ崎アメダスによる）。

特に、10月の降水量は、平年比197%と極めて多く、収量と品質に大きく影響しました。

(2) 10月の多雨が平成29年産「里のほほえみ」の収量と品質に与えた影響

6月播種の「里のほほえみ」の成熟期は、降雨

の影響により正しく判定できませんでしたが、10月20日～25日頃であったと推察されます(表1)。多雨の時期に成熟期となった6月播種の「里のほほえみ」は、莢が黒く変色し、粒にかびが発生し(写真1)、整粒歩合が低下しました(表1)。このことにより、収量と品質は著しく低下しました(図3)。

一方、7月播種の「里のほほえみ」は、6月播種ほど多雨による収量と品質の低下は見られませんでした(図3)。



写真1 平成29年6月30日播種「里のほほえみ」の莢と粒の外観（平成29年10月30日撮影）

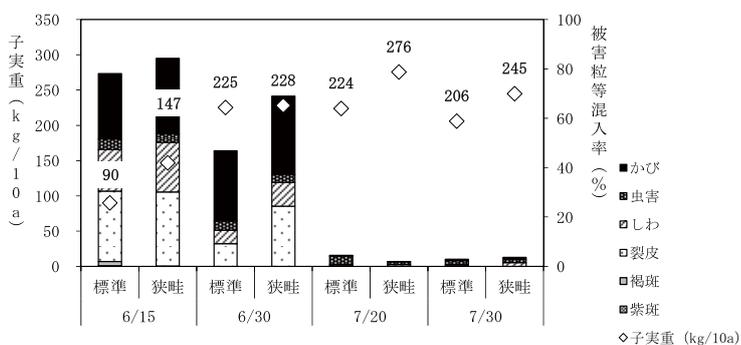


図3 平成29年産「里のほほえみ」の播種期と播種密度別の子実重と被害粒等混入率

- 注1) 栽培地は農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市 中粗粒灰色低地土）
- 注2) 標準は畦間60cm、株間15cm。狭畦は畦間30cm、株間15cm。
- 注3) 子実重は成熟期の坪刈りによる。水分15%換算値、
- 注4) 被害粒等混入率は300粒から選別、判定した割合

表1 平成29年産「里のほほえみ」の播種期と播種密度別の成熟期と整粒歩合

播種期 (月・日)	播種密度	成熟期 (月・日)	整粒歩合 (%)
6.15	標準	10.20	20.4
	狭畦	10.21	30.3
6.30	標準	10.25	60.3
	狭畦	10.25	64.3
7.20	標準	11.02	91.5
	狭畦	11.02	92.5
7.30	標準	11.17	92.0
	狭畦	11.17	92.5

- 注1) 栽培地：農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市 中粗粒灰色低地土）
- 注2) 播種密度：標準は畦間60cm、株間15cm。狭畦は畦間30cm、株間15cm。
- 注3) 成熟期：6月15日播種、6月30日播種は、降雨の影響により粒は柔らかかったが、試験区内の株の茎葉が枯れ上がった日を成熟期とした。
- 注4) 整粒歩合：子実重(kg/10a) / 粗子実重(kg/10a) × 100

(3) 「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法の励行

平成29年産は、10月中の多雨により適期播種の収量と品質が著しく低下しました。しかし、「里のほほえみ」の高品質安定生産には、6月20日

～7月10日の適期播種に努め、やむを得ず晩播となった場合は狭畦栽培を行い、適期に収穫することが重要です。

4. 「ふくまる」グランプリを開催

全国農業協同組合連合会 茨城県本部 米穀部

2月9日（金）に水戸市のフェリヴェールサンシャインにおいて、ふくまる推進協議会と茨城県産米銘柄化協議会は「平成29年度ふくまるグランプリ」を開催しました。

「ふくまる」グランプリは、栽培技術が優れる生産者を各集荷団体より推薦してもらい、選考・表彰し、「ふくまる」の品質・栽培技術・食味の向上を図ることを目的として開催されています。今年度は、生産者をはじめとしてJA、集荷団体、行政を含め107名が参加しました。

はじめに、茨城県産米銘柄化協議会の棚谷会長、ふくまる推進協議会の白石会長より、受賞者を含む「ふくまる」生産者へ向けた挨拶があり、続いて表彰式が行われました。表彰式では、最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞7名の計10名が

表彰され、最優秀賞は水戸市の木村好美氏が受賞されました。表彰式後は県の職員から29年産「ふくまる」の生育状況や生産物の品質分析結果の報告、また、最優秀賞を受賞した木村氏の栽培に関する取組みが優良事例として紹介されました。最後に、県関係者や最優秀賞の木村氏を含めたパネルディスカッション形式の栽培講習会が行われ、「ふくまる」栽培のメリットや栽培方法のポイントについて意見交換を行いました。

今回の「ふくまる」グランプリを通して、生産者や関係団体が一丸となり、次年度以降も「ふくまる」ブランド化に向けて取り組んでいきます。

「ふくまる」グランプリ受賞者一覧

正 賞	氏 名	所 属
最 優 秀 賞	木村 好美	JA 水戸
優 秀 賞	須藤 厚	JA 常陸（太田地区）
	斎藤 豊人	JA 常陸（高萩地区）
優 良 賞	川又 和男	JA 常陸（太田地区）
	飛田 勝治	JA 常陸（ひたちなか地区）
	農事組合法人 小貝の水	JA 茨城みなみ
	瓦会第一水稲組合長 石田 守	JA やさと
	木名瀬 一	JA 常陸（ひたちなか地区）
	萩谷 庄寿	JA 常陸（太田地区）
	栗山 康	JA 稲敷

特 別 賞	氏 名	所 属
茨城県知事賞	木村 好美	JA 水戸
茨城県議会議長賞	須藤 厚	JA 常陸（太田地区）
茨城県農林振興公社 理 事 長 賞	斎藤 豊人	JA 常陸（高萩地区）



「ふくまる」グランプリ表彰式の様子

5. がんばる種子生産者！



JA北つくば 結城種子生産部会
生産者 よし吉 だ田 かず和 あき朗さん

- ・コンバイン 2台
- ・乾燥機 6台
- ・田植機 1台

◆品質向上の取り組み

圃場に何度も入り異株・漏生苗など徹底してなくすようにしています。

また普及センターから圃場管理や適期防除等の指導を賜り優良種子生産に取り組んでおります。

雑草防除や病害虫防除は必ず適期に行うことを心掛けています。

◆経営規模

- 水稻・・・25ha（うち種子 2.5ha）
- 麦・・・25ha（うち種子 12ha）
- 大豆・・・5ha
- ネギ・・・2ha

◆今後の抱負

これからも優良種子生産に向けてJA、普及センター、関係機関と連携して取り組んでいきたいと思えます。また、講習会や研修会には積極的に参加し生産技術の向上や情報収集を図ってまいります。

◆保有機械

- ・トラクター 4台



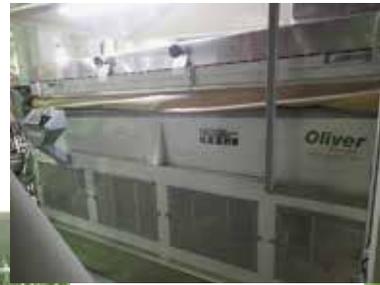
6. 穀物改良部ニュース

(1) 茨城県採種部会協議会が種子粕の聖地富山県訪問

各 JA の採種部会代表と種子担当者らで組織する茨城県採種部会協議会（谷田部貞雄会長）のメンバー 26 名が、種子粕生産の全国一を誇る富山県を訪問し、平成 30 年 1 月 23 日に富山県主要農作物種子協会の古瀬事務局長より、江戸時代から続く富山の種子生産の特徴と現状について講義を受けました。あくる日には、JA みな穂種子セン

ターに移動し、入善町採種組合小路組合長から種子生産に係る苦労や種子センターの運営等の説明を受け、種子場同士でしか知りえない綿密な情報交換を行いました。

今回の訪問から、富山県の種子生産に係る歴史的背景や混種事故を防ぐための県ぐるみの様々な工夫等、茨城県とは一歩も二歩も前を行く取り組みを伺うことができ、茨城の種子生産を今まで以上に安定するために決意を新たにしました。



(2) 平成 29 年産大豆・そば種子調製程度確認会の開催

平成 30 年 3 月 12 日旧茨城県穀物改良協会会議室にて、種子生産関係者および指導機関・販売業者を一堂に会して、平成 29 年産大豆・そば種子調製程度確認会が開催されました。

これまで種子は、民間検査員により種子規格に則っているか否かの種子検査を受けた後、販売業者に配送されておりましたが、種子場ごとの種子調製程度に差があつては、種子購入者に不利益が生じてしまうことを防ぐため、平成 27 年より各種子場の種子生産者一人一人の調製済み種子を持ち寄り、同一基準で仕上がっているかを関係者間で確認することを目的に開始されました。

種子生産者によると、平成 29 年産の作柄は、大豆・そばともに収穫期の長雨の影響を受け、思わしくなかったのは一般作だけではなく、種子も同様で、収穫乾燥・機械調製をした後に色選機を

何度か通し、さらに人の目で一粒ずつ選別して仕上げたので非常に手間がかかった、とのことでした。

販売業者は、今年の一般大豆の農産物検査結果は、かなり厳しい状況であるにもかかわらず、種子はよくぞここまでものを揃えてくれた。生産者の努力に頭が下がるとコメントしました。



(3) 落花生生産者・関係機関情報交換会について

2月28日(水)13時から水戸京成ホテル3F会議室において、「平成29年度落花生生産者・関係機関情報交換会」が、生産者を含め15名の出席により開催されました。

情報交換会の中では、今年産は平年並みの生産量が確保出来たものの、収穫時における長雨等により品質面での影響が大きかったとの報告がありました。また、落花生に含まれるポリフェノール等が健康に良いとのテレビ放映の影響もあり、国産落花生の需要が伸びている状況への今後の対策等、出席者から活発な意見が出されました。

千葉県に続いて全国2位の位置にある本県の落花生であります、平成29年産落花生作付面積

が561ha(前年比96%)と連続して減少している現状の中、生産者の高齢化対策が緊急の課題となっています。

落花生生産における機械化は、他の品目と比べ遅いものがありますが、4年前から国では落花生播種機や落花生収穫機の開発と実用化に取り組んできていることから、1日も早い普及が求められています。

今後も、今回のような情報交換会を適宜開催していくことを確認し、落花生情報交換会を終了しました。



落花生生産者情報交換会

(4) 全国そば優良生産表彰式について

「平成29年度全国そば優良生産表彰式」が、3月22日如水会館(東京都千代田区)で開催され、稲敷郡阿見町の齋藤正義さんが全国農業協同組合中央会会長賞を、坂東市の株式会社青木農芸(代表取締役青木茂和さん)と結城郡八千代町の廣瀬秀月さんが(一社)日本蕎麦協会奨励賞を受賞されました。

それぞれ農地の集積等による経営規模の拡大や土づくりなど基本技術の励行、機械化による経営の効率化に取り組まれており、契約栽培など安定

的な生産・出荷と地産地消や消費拡大などの取り組みが評価されたもので、今後のご活躍が期待されます。



全国そば優良生産表彰式

(5) 県北コシヒカリ最上級の「特A」評価獲得

平成29年産米の「食味ランキング」が、平成30年2月28日に一般社団法人「日本穀物検定協会」から発表され、茨城県「県北コシヒカリ」が食味が最も良いとされる「特A」を獲得しました。

食味評価は、「香り」「外観」「味」「粘り」「硬さ」「総合評価」の6項目について比較評価(数値化)し、評価結果のうち基準米よりも特に良好なものを「特A」、良好なものを「A」、おおむね同等なものを「A」、やや劣るものを「B」、劣るものを「B」にランク付けています。

平成29年は全国の151産地品種について食味試験を実施し、「特A」の取得産地品種銘柄数は

43となっています。

◆茨城県内の食味評価(平成29年産の結果)

○	県北	コシヒカリ	……………	特A
○	県央	コシヒカリ	……………	A
○	県南・県西	コシヒカリ	……………	A
○	県南	あきたこまち	……………	A

(注) 米の食味ランキングは、主な産地品種銘柄について、日本穀物検定協会がその供試試料を食味した結果に基づき評価するもので、流通するすべてのお米を評価しているものではありません。

◎お知らせ

穀物改良部では、下記により人事異動がありました。(平成30年4月1日付け)

参事兼 穀物改良部長

加倉井 直紀

(前 JA 茨城県中央会県域営農支援センター長)